



# もんぜんろくちょう

タイトルの3つの色は、鬼すべの際の警固・鬼係・燵手の法被の色をイメージしたものです。

## 協議会の目的と活動

太宰府天満宮門前六町まちづくり協議会は、太宰府天満宮門前六町（三条・連歌屋・馬場・大町・新町・五条）の代表者 12名と太宰府天満宮、筑紫女学園大学、太宰府市が構成員となって組織されています。また、事業に伴い参道部会・小鳥居小路部会が設置されており、協議会構成員のほかに門前六町の各自治会から推薦された関係者で構成されています。本協議会は、太宰府天満宮門前の歴史的風致の維持向上を目的とした歴史的市街地づくりを行うことで、地域の活性化などを促し生活環境の向上を図るための協議会です。そのために門前六町の皆さんからの意見を集約し、門前のまちづくりの方針を検討し、行政と協働で住み良い環境、憩えるまちを創り出していきます。

## 活動の内容

### ■ 総会の開催 ■

#### ● 第1回総会

日時 令和元年7月1日（月）

18:00~20:00

会場 馬場区公民館

#### 1) 総会議事

- ① 第1号議案 平成30年度の事業報告
- ② 第2号議案 平成30年度の決算報告  
監査報告
- ③ 第3号議案 令和元年度の事業計画案
- ④ 第4号議案 令和元年度の予算案

#### 2) 審議内容

第1, 2号議案の前年度の事業報告及び決算



■ 総会の様子

報告を提案、監査報告し、審議の結果、全会一致にて承認を受けました。第3、4号議案は、令和元年度の事業計画案及び予算案を提案し、全員一致にて承認を得ました。

#### 3) 報告事項

- ① 令和元年度の筑紫女学園大学の活動について、現代社会学部准教授の上村先生より活動内容を報告いただいた。

### ■ 先進地視察研修（日田市） ■

期 日 令和元年10月23日（水）

視察地 大分県日田市（豆田地区）



■ 大分県日田市豆田地区での先進地視察

豆田地区伝統的建造物群保存地区

江戸時代の儒学者である廣瀬淡窓が起こした私塾咸宜園（史跡）がある豆田地区で、江戸幕府直轄地である「天領」として栄えた街なみが今も伝統的建造物保

存地区として歴史的建築物の保存修理が行われています。豆田地区は、商業店舗として活用されつつ歴史的街なみが残された街として、歴史的建築物の活用策や民間事業者の取組みを学ぶことを目的としました。また、豪雨災害にみまわれた豆田地区でもありますので、防災対策についても学びの目的の一つとしました。

咸宜園と豆田地区の整備状況を午前中に、日田市教育委員会の担当職員の皆さまから案内を受け、午後からは豆田地区の商店主であり伝統的建造物保存会の副会長をお努めの皆さまに、豆田地区の活性化の取組みや防災対策についてお話しを伺いました。

## ■部会の活動■

### ●参道部会

《第1回参道防火訓練》

日時 令和元年12月5日(木)

10:00~11:00

会場 太宰府東消防署

参道部会では、平成29年に実現した太宰府天満宮参道景観保全地区(以下、「保全地区」とする)の取組の一環として、下屋庇等の規制緩和策に附帯して必要となった、保全地区内の方々の防火訓練を実践する取組みを、筑紫野太宰府消防組合消防本部と連携し実現いたしました。詳細は『お知らせ』12号に掲載していますので、そちらを御覧ください。歴史的・伝統的意匠を持ち、太宰府の個性を体現する太宰府天満宮参道の景観は、昔ながらの木造建築や隣家と僅かな隙間しか持たない密集した地域です。一旦火事になると新潟県糸魚川市での大火災と同じ結果も十分想定できるだけに初期消火の大切さを、訓練に参加された皆さまは再認識されていました。参道や宰府宿内の火災事例は、



■防火訓練時に行われた講話の様子

頻繁ではないにしろ「忘れた頃」に発生しています。大火災に至らせないためにも、関係者の皆さまの防火意識の高まりをお願いいたします。

### ●小鳥居小路部会

《第1回》

日時 令和元年9月18日(水)

18:00~20:00

会場 連歌屋区公民館

《第2回》

日時 令和元年12月4日(水)

14:00~16:00

会場 連歌屋区公民館

小鳥居小路部会では、「小鳥居小路の魅力の向上」をテーマに事業者・住民側の取組みや行政的な制度としての景観計画の変更や歴史的街なみ形成の取組みについて報告や議論を行いました。



■小鳥居小路部会での議論の様子

## 関連事業

### ■建造物修理・修景事業■

今年度は、参道の<sup>いずみや</sup>齋垣にある「泉屋」を屋号とする建物の修理と附帯して昭和後期に増築された部分の修景を行いました。

### ●歴史的風致形成建造物保存修理事業

#### いずみや ▲泉屋

「泉屋」を屋号とされる大野家店舗のうち、天保12年(1841)建築と伝えられている参道側の建物について、歴史的風致形成建造物保存修理事業として実施しています。「泉屋」は、昭和30年代まで木造4階建ての建物であったことが古写真からたどることができ、



■保存修理・建築意匠修景が行われた「泉屋(大野家店舗)」

「さいふまいり」に訪れた人々の投宿の宿屋として営業をされていたことを知る貴重な建物でした。今では、上部の3階、4階は解体され、木造2階建て建物として貸店舗活用がなされており、歴史的意匠屋外広告物第1号指定を受けた「梅園」の看板が掲げられている店舗でもあります。

建物外壁の漆喰仕上げや下屋庇、雨樋が修理され、併せてガスボンベ・電気メーターの修景などが行われています。

## ●歴史的市街地の修景推進事業

### ▲大野家店舗

歴史的建築物である「泉屋」の南側に附帯している昭和後期以降の増築部分で、江戸時代建築の「泉屋」の保存修理に併せて修景工事が行われました。木調を基調とし、濃い茶色系の色彩と漆喰をイメージさせる白色で整えられ、参道に面した「泉屋」の意匠との連続性に配慮したものになっています。

「泉屋」の修理・修景が行われたことで、また一つ、参道の歴史的景観づくりにとって貴重な一歩となりました。宰府宿の建物の修理・修景を進めていただいている関係者の皆さまに感謝いたします。

## ●伝統文化普及啓発事業

官学連携による太宰府の歴史まちづくりの一手法として、筑紫女学園大学現代社会学部との協働を進めています。今年度は、「令和発祥の都・太宰府」の地となった大宰府政庁跡周辺の文化遺産調査や、歴史的水路の清掃活動など、伝統文化普及啓発の手法の幅を広げ、様々な活動を通じて、歴史的風致維持向上計画で実施した事業地にある文化遺産の普及を実践しています。

## まちづくりの取組み

# 小鳥居小路マーケット

## ■小鳥居小路の魅力づくり■

2018年5月30日より「太宰府小鳥居小路マーケット（以下、「マーケット」とする）」が開催され、今年で2年が経過しようとしています。そこで、このマーケットについて、主催者のお立場から杉 諭登氏に、立ち上げられた経緯や取組について紹介していただきます。

### 1.太宰府 小鳥居小路マーケットとは

マーケットは、小鳥居小路で生活を営む方々の様々な「思い」を汲み取り、小鳥居小路にある魅力を資源として活用しながら通りの活性化を行う為のイベント、またはツール（手段・道具）です。

さらに、小鳥居小路やマーケットを介し太宰府市全体の活性化に貢献できるイベントとも考えています。

### 2.マーケットをはじめた経緯

ここに移り住んだ頃、小鳥居小路は数十年前まで、「太宰府の銀座」として様々な商店が建ち並び、活気ある通りだったとお伺いしました。しかし、近年では社会の変化や継承問題などの諸事情により、商店は減り、人通りの少ない通りになってしまったと伺っています。そんな中、通りの活性化の為に、様々な活動をするシニアの皆さんを見て、通りの為に小さなことでもいいので何かしなければと思ったのです。

### 3.マーケットの内容

マーケットでは、以下のことを行っています。

1) 開催日は、毎月1回、第4水曜日に開催。(太宰府天満宮の祭事や太宰府市全体でのイベントなどの関係に合わせて、月によっては第4水曜日以外に開催する場合があります。)

2) 定休日の店舗駐車場などの空きスペースを活用し、普段小鳥居小路にはないお店(太宰府内外)にテントショップを出店して頂いています。また、通りの既存店にも参画いただき、スタンプラリーなども行っています。

3) 市内の大学と連携し、マーケットを介して、地域振興に参画していただくことで、通りにはない魅力や知恵、人を地域に呼ぶことを目的とするとともに、地域振興を通して学生の皆さんの様々な学びの場にできると考えています。

例えば、ご当地アイドルである「福岡官兵衛 girls」と九州情報大学による YouTube 生放送を行い、出店者情

報や太宰府で活動される方の活動内容を配信しています。

#### 4.活動をとおして見えてきたこと

小鳥居小路にとっての地域活性化とは何なのか、いつも自問自答しながら活動してきました。その中で少し見えてきたことがあります。

##### 1) 強いコミュニティの必要性

小鳥居小路は歴史を物語るように古い建物や祭事があり、単なる商店街ではなく、そこで生活を営む住民の方々とともに一つのコミュニティを形成しています。そのような社会的環境の中であって小鳥居小路における地域活性化とは、小鳥居小路で生活を営む方の様々な「思い」をくみ取り、形にし、小鳥居小路にある資源・魅力を活用しながら発展させることだと思います。

しかし、これは流動的で、通りで生活を営む方が変わればその時の「思い」も変化するものだと思います。

そこで、継続し発展し続けられる強いコミュニティが必要になると思います。

##### 2) 強いコミュニティをつくるために

強いコミュニティをつくるために必要なことは、どの社会でも同じだと思いますが、人とひととの「関わり」だと思います。挨拶やお互いの名前を知ることで、他人から知人になります。さらに会話をすることでお互いを知り、親交を深めることで絆が生まれます。そうやって共同体はつくられるのではないかと思います。

そのような考えのもと、マーケットは、関わりをつくるためのツールや拠り所（居場所）だと考えています。

##### 3) 誰のために何のためにやるのか

小鳥居小路で生活を営む方の様々な「思い」を汲み取り、形にする上で重要なのが「視点」です。

様々な人が生活するコミュニティにおいて、全ての思いが100%同じ方向を向くことは困難です。個々の視点も重要ですが、小鳥居小路という社会が置かれた環境など多様な視点で考え、決める必要があります。様々な「思い」を汲み取りつつも、それは「誰のために、何のためにやるのか」という視点で議論した上で形にすることが大切だと思います。

##### 4) 小鳥居小路の社会的役割

太宰府市を見たとき、観光産業は非常に重要な産業の一つです。毎年多くの観光客が訪れていますが、課題も山積みです。そのような中で、今後重要な役割を果たすのが小鳥居小路だと考えています。

太宰府市の観光産業は通過型で、滞在時間は短く、滞在時の利用金額も非常に少ないといわれています。また、短い滞在時間では本来の魅力も十分には伝わりません。通過型観光から滞在型観光へシフトし、少しでも滞在時間を延ばし、楽しんで頂けるようにすることが大事だと思います。

その為の様々な取り組みを実施する時、小鳥居小路は歴史を生かしつつもまちづくりの創造幅が広く、住民のご理解もあると思っています。

「誰のために、何のためにやるのか」という視点を少し

広げてみた時に、小鳥居小路だけでなく太宰府市の観光産業という視点で、小鳥居小路の在り方について考えることも必要だと思っています。

#### 5.これから

「誰のため、何のためにやるのか」という視点を持ち、人びとを結び付け、継続して発展し続けられる強いコミュニティをつくるためのツールとして、また太宰府天満宮周辺の観光産業における魅力のひとつとして継続し活動していきたいと思います。



■小鳥居小路マーケットの様子



■大学連携の取組み

#### ◆太宰府天満宮門前六町まちづくり協議会

【協議会】 ※◎会長 ○副会長 △監事  
(三条) 有岡昌生 ○永利久嗣(連歌屋) 有岡慶子 杉村泰宏  
(馬場) 山口捷海 市川英二(大町) △日高 一 山田豊衛  
(新町) 木村敏美 ◎入江政幸(五条) 大藪善治 安枝昭雄  
(天満宮) 馬場宣行(筑女大) 上村真仁

##### 【参道部会】

三宅明治 小野隆弘 高田由美子

##### 【小鳥居小路部会】

有岡善雄 青柳宏征 小森田一夫 齋藤風子 下津浦宏  
中島英幸

※太宰府市も協議会の構成員として参画しています

#### もんぜんろくちょう 第8号

編集・発行 太宰府天満宮門前六町まちづくり協議会  
【事務局 太宰府市都市整備部都市計画課 景観・歴史のまち推進係】  
発行日 令和2年3月30日